

中芸高だより

平成27年度
第5号



平成二十七年中芸高校卒業式

東部海岸線沿いの地域には珍しく、雪の散った前夜の寒さが残る三月一日(火)、平成二十七年卒業式が挙行され、昼間部十九名の生徒が巣立っていきました。

式では、登壇した生徒一人ひとりに、学校長が卒業証書を授与。続く式辞では、卒業生の年齢である十八歳を話題に、一昨年ノーベル平和賞を受賞したバキスタンのマララさんと、選挙年齢の引き下げについて触れ、「生涯学び続けようとする姿勢と選挙など公共的な事柄に参加しようとする意識は、二十一世紀に主人公として生きる上で、必要な意欲や態度である」と語り掛けました。そして、「高知県東部地域の美しい自然と、変わらず残る人情に誇りを持ち、中芸高校の卒業生として、一人ひとりがそれぞれの場所で、他に代わりようのない大きな存在になって欲しい」と結び、卒業生を激励しました。

その後、生徒会長の益岡勇輔くんが送辞の中で、行事や部活動など三年生との思い出を振り返り、感謝の思いを伝えました。また五郎丸歩選手の手言葉を取り上げ「逆境に立たされてこそ成長できる部分は必ずある」とエール。これに応える形で、卒業生を代表して有岡雅史くんが、「一緒に卒業する三年生や、家族、先生、そして在校生それぞれに向けて、支えられ共に過ごした高校生活を回顧し、最後に「諦めない限り、道はある」とのメッセージで締めくくりました。退場の際に、くす玉から現れた言葉は「一期一会」。かけがえない出会いを大切にしたい、との下級生からの思いが込められました。

式典終了後は、場所を移動して視聴覚室で第二部の送る会。まず、生徒会主催によるスライド上映が行われ、三年間の思い出を、笑いと涙で懐かしく振り返りました。続いて三年生が一人ひとり高校生活の思い出を語り、在校生や保護者の方々へ最後のメッセージを贈りました。また、三年間様々な場面で支えられ、指導を受けた先生たちに、ひと言ずつ感謝の言葉を伝えました。胸が一杯になり、言葉に詰まることもありましたが、それぞれの思いを温かく包む拍手に送られ、下級生たちが飾りつけた教室で最後のホームを行い、卒業生たちは学び舎を後にしました。生徒・教員がお互いに近い距離での関わりを築いてきた、小規模校ならではの温もりのある卒業式となったように思います。

最後になりましたが、御列席いただきました来賓の方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、この日を待ち望まれていた保護者の皆様、本当におめでとうございました。

新しい未来に向かって力強く歩み始めた卒業生たちの今後の活躍に、心から声援を送りたいと思います。



青岬ジオパークフィールドワーク

二月三日(水)、二年生の地学基礎選択生徒の二名が、室戸岬ジオパークのフィールドワークに行ってきました。

ガイドの方の説明を聞きながら、タービダイト(砂岩と泥岩の互層)、漣痕(波の痕)、底痕(生物痕)などを観察しました。「ジオパークについていろいろなることを知れたし、授業の復習にもなっていてよかった。ここが大昔は海の底だと思ったら、地球は本当に動いているんだなと感じた。」



「室戸岬は自然が豊かで、厳しい環境でも生きてきた生物の知恵をみることができた。地質学的にも貴重な場所であり、地球の歴史をわかりやすく理解できるいい場所だと思う。ボランティアガイドの方の熱心な説明にも感心した。」

という生徒の感想に、実際に見て触れて体験することで、授業で学んだことの再確認ができることを実感しました。

プレゼンフェスタ

二月十三日(土)、県下十二校、十五チームの高校生が参加し、「伝えたことがあるんだ」をテーマに、プレゼンテーション力を競い合う大会が開催されました。

各チーム、動画でPRしたりダンスで表現したりと様々でした。中芸高校からは二年生のチームグッチーが「奈半利町を発展させる」というテーマで発表しました。中芸学よりも緊張したようで、頭が真っ白になりながらも、たくさん質問に何とか答えることができました。



その後、各校とのゲームを交えた会もあり、他校との交流も深まりました。結果は残念ながら賞をもらうことはありませんでした。が、人前で話すことに自信もつき、貴重な体験ができた一日でした。

龍馬マラソン参加

県内外八千人以上のランナーが参加した龍馬マラソンに、本校からも三年生二名、教員二名がエントリーし、三名が完走しました。

受験を終えた三年生二人はマラソン初挑戦。放課後や休日に先生と共に練習を重ね、本番に備えました。雨の中での練習も経験し、芳しくない天気予報にも「大丈夫です」と力強い事前の言葉が聞かれました。

大会当日、二月十四日(日)、前日の荒天とは打って変わり、暑いほどの陽気の下、チーム中芸の四人は土佐路を駆け抜けました。やはり30km以降が厳しかったようで、それでも五時間ほどのタイムでフィニッシュ。残念ながら25km過ぎの関門で制限時間に阻まれた一人も、よく健闘しました。

二年生が、先輩に続けと早くも来年の大会への参加に意欲を示しており、今後が楽しみです。

進路トライアルスタディ

三月八日(火)、県内各分野の専門学校に本校から来たとき、体験授業を行いました。一・二年生全員で、美容系・調理系・看護系・情報処理系・ペット系・公務員の、六つの講座に分かれて、それぞれ一時間ずつ二つの分野の模擬授業を受講。いずれも八名程度までの少人数で、細やかな指導を受けながら、実際にヘアカットや血圧測定、トリミング体験、公務員試験などに取り組みました。感想では「とても良かった」(66%)、「良かった」(34%)と答え、充実した時間となったようです。

*授業を受けて、看護師という職をもう少し知ってみたいと思いました。人と寄り添い、人を大切にする仕事、いいなと思いました。(看護)

*簡単な数学の問題を、大量に短い時間で解けないといけないと知りました。資料解釈の問題も落ち着いて考えれば簡単だが焦って難しかった。(公務員)

*興味があるだけだったけど、動物関係だけじゃなく、他の仕事にも共通する話も聞けて良かった。(ペット)

*IT、Webビジネスのことが知ることができましたし、簡単なプログラミングもやってみました。難しかったけど、楽しくできました。(情報処理)

*先生のだし巻き卵の作り方がかっこよかったです。家でやってみよう、大根や人参で飾りも作ってみたいと思いました。進路に興味がありました。(調理)

*初めて髪を切ったけれど、きれいに切ることができて良かったです。(美容)

